

教育を通して地域活性を目指す循環可能なエネルギー支援プログラム

# ENERGY Gift mini

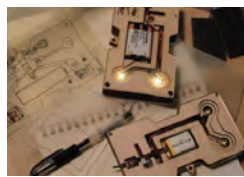


## エネルギーは社会を育てる

ENERGY Gift mini は、全世界人口の約20%を占める無電化地域への、エネルギーと教育を軸にした支援プロジェクトである。電気がないため、夜に勉強することもままならないタイの無電化島の子供たちに、バンコクの大学生が中心となり企画開発したソーラーランタンを届けた。学生がランタンを企画開発するためのプログラム、ランタンのデザインディレクション、無電化島に届けるイベントなど、全てのプラットフォームをデザインすることでタイのような先進都市と後進地域が併存する国の自国内で循環可能な支援プログラムを構築した。単に電気を届けるのみでなく、交流と教育を組み込んだことにこのプロジェクトの特徴がある。



### 学びの機会1 領域横断型の学び



デザインから実装、量産に到るまでの全行程をタイのKMUTT大学の学生と日本の学生との共同で行った。仕事として取り組む経験を通して、より実質的な学びを得られると考えている。さらに、資金調達、デザイン、エンジニアリング、コーディネートまで様々な学生が領域横断的に協働してひとつのプロジェクトを完成させることにも大きな意味がある。また、教育支援を通して自国内の問題に当事者意識を持たせ、未来のリーダーとしての活躍を期待している。

### 学びの機会2 体験型の理科的学び

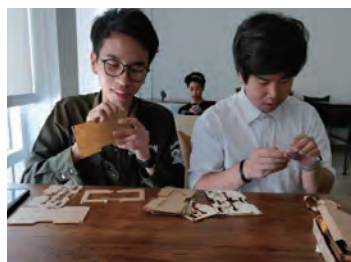


ENERGY Gift mini は完成品として提供せずに、子供向けの組み立てキットとして配布することとしている。小学校などでの理科の授業に役立ててもらえるよう意図しており、「組立図」も、子供達にとって親しみやすいデザインとしている。子供達はこのキットを組み立てることによって、エネルギーや電気について学ぶことができる。

### 学びの機会3 夜の自主学习による学び



無電化地域において、家族全員が使っている一本のろうそくの火から子供達を解放してあげること。つまりそれは、家族の団らんから離れ、勉強をするために子供達が集中できる環境を整えてあげることである。その環境を太陽光で充電できるこのLEDライトはつくりだせる。このような環境をつくることで、より多くの子供達が積極的に勉強し、その結果進学率があがり、将来的に地域コミュニティに大きな発展の可能性が開かれることを期待している。



プロジェクトを進めるうえでは、技術面のみならず、国際間連携を実現することも重要であった。



デジタルファブリケーションを用い、日本とタイでの連携をスムーズに行うことで効率的にプロダクトを開発した。



スケールの異なる展開にチャレンジすることで、学生により多角的な学びの機会を与え、彼らの発想の幅を広げることができる。

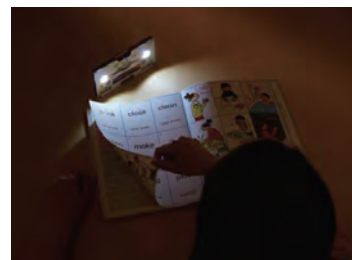
## 先進地域と無電化地域が併存する国の国内において循環可能な支援プログラム



パーツと説明書が入ったキットを配布し、自身で組み立ててもらうことで、自発的に仕組みを理解していく。



エネルギーとは何か、化石燃料と再生可能エネルギーの違いは何かなどを紙芝居を通して、理解していく。



太陽充電式のソーラーLEDを購入することで、夜に電気がない環境でも学習ができるようになる。

## ENERGY Giftのあゆみ

ENERGY Giftは、無電化地域へのコミュニティ支援プロジェクトとしてスタートした。コンテナに積み込んだソーラーパネルなどの発電システムとそのシステムを利用した建築プログラムを無電化地域に届けるというものであり、試作まで行っている。

●2013  
株式会社ENERGY MEETにより、ENERGY Giftプロジェクト構想立ち上げ



●2014  
タイKMUTT大学とチーム結成、国際コンペ「LafargeHolcim Awards」に参加



●2015  
BANGKOK DESIGN FES 2014に出展、KMUTT大学と共同で原寸大実地試験スタート



●2016  
BANGKOK DESIGN FES 2015にてワークショップ開催、KMUTT大学との協働により現地で量産可能な仕様へ



●2017  
クラウドファンディングにて資金を集め、ハン島贈呈イベントを実施



●2018  
ハン島イベント第2弾実施予定